

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和5年4月20日

事業所名 放課後等デイサービス ぐん☆ぐん

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			・部屋以外の遊戯室、園庭なども活用し、また活動によって法人内の施設も活用している。	
	2	職員の配置数は適切である	○				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている			○		・施設自体はバリアフリー化ではないが、個々の対応として手すり等の設置を行っている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			・記録等で周知共有するようにしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			・ホームページで公開	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		・外部評価はできていないので、今後検討している。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			・研修を受ける職員が偏らないようにしている	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			・モニタリング会議を行い計画を更新している。 ・目標設定をスモールステップで設定するようにしている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している			○		・専門的な職員がいないためできていないが、簡単に取れるものを取り入れていきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○				
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			季節の行事、イベント等も子どもが楽しめるよう力を入れている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○				
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	○				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			・朝礼や毎日のミーティングを行っている。併設する学童クラブとのミーティングも行い連携を図っている。	

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			・業務日報やメール連絡を使って、伝達の漏れがないよう共有している。	・些細な出来事でも漏れがなく職員と共有できるように努めている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				・記入の統一性を図るため、記録に関する研修を実施したい。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			・曜日によって様々なプログラムを取り入れている。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			・お預かりする時には、学校の連絡帳を確認しお便り等共有している。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○		該当者なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			・通っていた施設に出向き直接保育士の先生から話を聞いている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			○		・必要に応じて情報提供するが、まだ事例がない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			・積極的に研修を受けてつながりを持つようになっている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			・併設する学童クラブと日常的に交流している。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○				
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			・お迎えの際に保護者としっかりお話しして、支援につなげるようにしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○		・事業所で対応支援はできないので、外部の講座等のご案内をしている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			・契約時や必要な時に行っている。	

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			・必要な時に随時面談を行い即対応するようにしている。		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○		・コロナ禍で保護者の方が集まる機会がなかったので、今後また機会を増やしていきたい。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○					
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				・保護者配信アプリ『コードモン』を活用してお知らせや写真等を配信している。	
	35	個人情報に十分注意している	○					
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○					
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている				○		・コロナ禍で実施できなかった。今後検討したい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○				・保護者の方が閲覧しやすいように工夫したい。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○				・避難訓練は年3回学童クラブと合同で実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○					
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○				・現時点では、日常的に身体拘束を行う児童はいない。	・緊急時、パニックで暴れたり施設からの飛び出し等の行為があった場合には、安全面に配慮するため、やむを得ず拘束を行う場合があり、その際は必ず保護者に事後報告をしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				○		該当者なし
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				・小さなことでもヒヤリと思ったことを記入し、職員で共有するようにしている。		